湖国

お城観光ガイドブック

名城万華鏡

覇者の夢、近江にしのぶ

発行／公益社団法人びわこビジターズビューロー・滋賀県
2025年11月 50,000部
表紙画像：近江国絵図（1701年）（滋賀県立図書館蔵）、
長浜城、彦根城、安土城、水口城、小堤城山城、大溝城、坂本城

「城の国」近江への誘い。

琵琶湖を有する湖国・滋賀はかつて
近江(*1)と呼ばれた。
近江は東国や北国と接し、都に隣接したことから
天下を制する要衝として数多くの城郭が
築かれた「城の国」(*2)でもあった。
近江源氏の流れをくむ六角氏・京極氏が
山地に大小の城館を築き、
天下布武を掲げた織田信長は湖岸に城を築き、
跡を受け継いだ豊臣秀吉、徳川家康も
東西をつなぐ街道沿いに新たな城を築き上げた。
城の国に紡がれたつわものたちの
夢と野望の足跡を求め、
時を越えて城旅に出かけよう。

＊1　都から近い淡水湖の国「近つ淡海（あはうみ、あふみ）」が転じて近江となった。
（江は陸地に入り組んだ海、大きな川の意味）
＊2 滋賀県内には約1300余の城跡の存在が確認され、単位面積では全国一の集積度を誇る。

玄宮園から望む彦根城天守

Contents

03　湖国近江の城マップ
05　城郭用語辞典
07　COLUMN 近江の戦国史概説／小和田 哲男
09　戦国近江を彩った英傑たち
11　近江の戦国争乱Ⅰ
六角氏と京極氏の城
13　近江の戦国争乱Ⅱ
足利将軍と近江の城
15　近江の戦国争乱Ⅲ
信長と戦った城・寺院
17　織田信長と近江
〈湖上ネットワーク〉の城
19　〈お城好きなら見逃せない！〉
安土城がもっと見えてくる！／いなもと かおり
21　COLUMN 賤ヶ岳城塞群について／中井 均
23　豊臣秀吉・秀次と近江
豊臣政権の城
25　COLUMN 秀吉・秀長・秀次と近江／柴 裕之
27　徳川家康と近江
天下泰平の城
29　まだまだあるぞ 湖国近江の名城
33　〈歴史好きなら見逃せない！〉
近江戦国スポット／クリス グレン

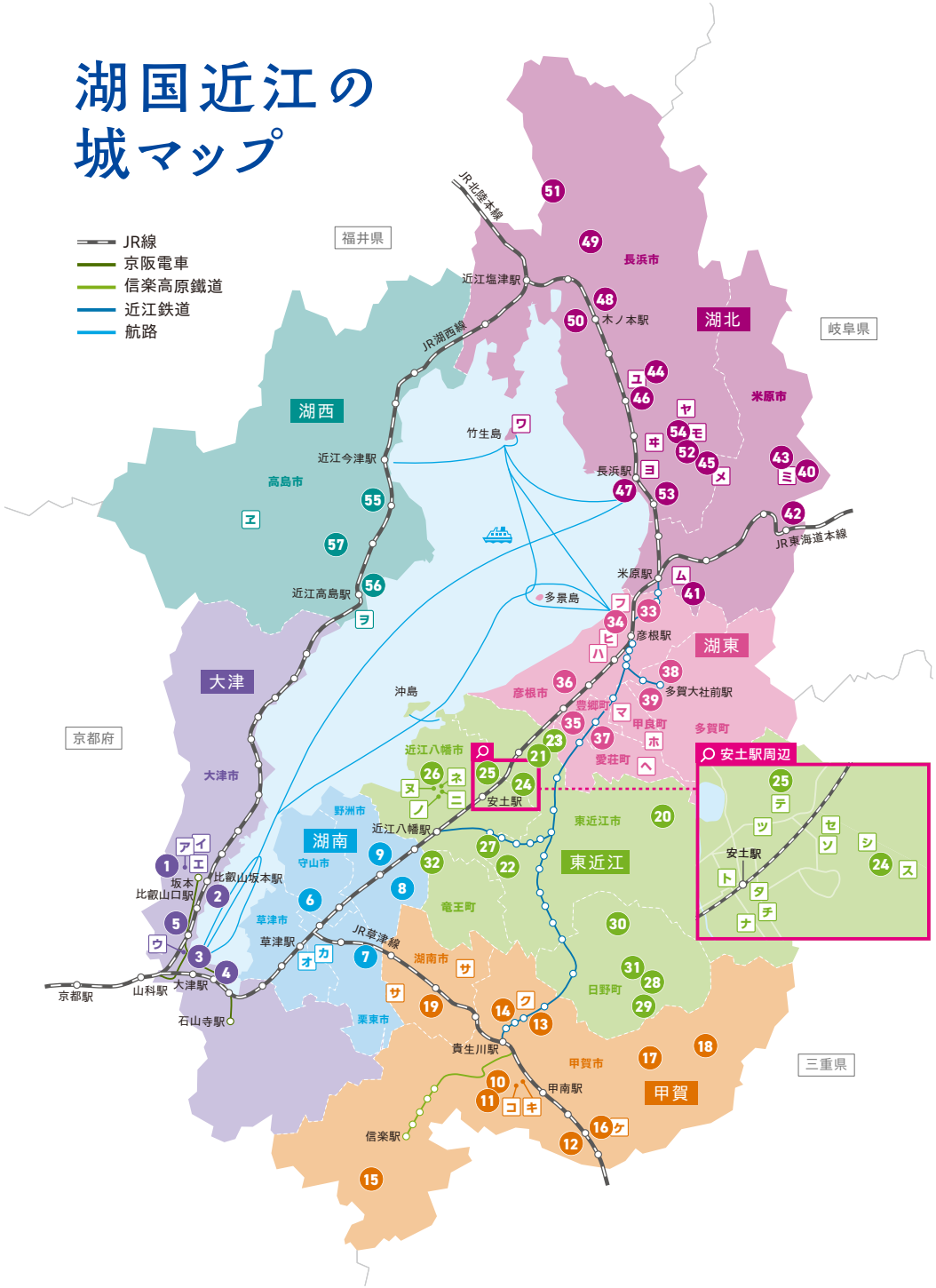
監修・文
小和田 哲男（日本城郭協会理事長）
中井 均（滋賀県立大学名誉教授）

文
柴 裕之（歴史学者）
いなもと かおり（城マニア・観光ライター）
クリス グレン（お城好きラジオDJ）

城の名称や曲輪等の名称：管理している自治体ごとに「〇〇城」、「〇〇城跡」、「〇〇城址」や「二の丸」、「二ノ丸」、「二之丸」とつけられていますが、この冊子では城の名前は「〇〇城」、曲輪の名称は「の」の字で表記を統一してあります。

〈主要参考文献〉中井均著『近江の戦国城郭』（サンライズ出版）／中井均編『近江の山城を歩く70』（サンライズ出版）／高田徹著『近江の平城』（サンライズ出版）／仁木宏・福島克彦編『近畿の名城を歩く 滋賀・京都・奈良編』（吉川弘文館）／歴史群像シリーズ『戦国の城全史』（学研パブリッシング）/「戦国の近江」地域の魅力発信事業：近江戦国探訪ガイドブック、「近江の文化財」魅力発信事業：県内文化財探訪モデルコースマップ、「近江の城」魅力発信事業：県内文化財探訪モデルコースマップ（滋賀県文化財保護課）
※そのほか 関係自治体公式サイト、関係パンフレット、出張お城EXPO in 滋賀・びわ湖「滋賀のお城情報」近江の城めぐり（https://shiroexpo-shiga.jp/column/）も参考にしています。

湖国近江の城マップ



大津エリア

1 比叡山延暦寺（大津市） 15
2 坂本城（大津市） 18
3 大津城（大津市） 24
4 膳所城（大津市） 28
5 宇佐山城（大津市） 29

ア 日吉大社（大津市） 15
イ 西教寺（大津市） 18
ウ 大津市歴史博物館（大津市） 24
エ 坂本のまちなみ（穴太衆積みの石垣）（大津市） 34

湖南エリア

6 三宅城（蓮生寺）（守山市） 29
7 多喜山城（栗東市） 29
8 小堤城山城（野洲市） 14
9 永原御殿（野洲市） 28

オ 草津宿本陣（草津市） 28
カ 鈎陣所（永正寺）（栗東市） 14

甲賀エリア

10 新宮城・新宮支城（甲賀市） 14
11 寺前城・村雨城（甲賀市） 14
12 和田城（甲賀市） 14
13 水口岡山城（甲賀市） 24
14 水口城（甲賀市） 28
15 小川城（甲賀市） 29
16 上野城（甲賀市） 30
17 土山城（甲賀市） 30
18 黒川氏城（甲賀市） 30
19 三雲城（湖南市） 13

キ 甲賀流リアル忍者館（甲賀市） 14
ク 大池寺（甲賀市） 28
ケ 油日神社（甲賀市） 33
コ 甲賀流忍術屋敷（甲賀市） 34
サ 国宝湖南三山（常楽寺、長壽寺、善水寺）（湖南市） 13

東近江エリア

20 百済寺（東近江市） 15
21 伊庭御殿（東近江市） 30
22 後藤館（東近江市） 30
23 佐生城（東近江市） 30
24 観音寺城（近江八幡市・東近江市） 11
25 安土城（近江八幡市・東近江市） 18
26 八幡山城（近江八幡市） 23
27 瓶割山城（長光寺城）（近江八幡市・東近江市） 30
28 音羽城（日野町） 30
29 鎌掛城（日野町） 31
30 佐久良城（日野町） 31
31 中野城（日野城）（日野町） 31
32 井上館（竜王町） 31

シ 桑実寺（桑峰薬師）（近江八幡市） 11
ス 観音正寺（近江八幡市） 11
セ 滋賀県立安土城考古博物館（近江八幡市） 19
ソ 安土城天主 信長の館（近江八幡市） 19
タ 安土城郭資料館（近江八幡市） 20
チ 旧伊庭家住宅（近江八幡市） 20
ツ セミナリヨ史跡公園（近江八幡市） 20
テ 摠見寺（近江八幡市） 20
ト まけずの鍔本舗 万吾樓（近江八幡市） 20
ナ 沙沙貴神社（近江八幡市） 20
ニ 八幡堀（近江八幡市） 23
ヌ 村雲御所 瑞龍寺門跡（近江八幡市） 23
ネ 日牟禮八幡宮（近江八幡市） 23
ノ 新町通りの町並み（近江八幡市） 23

湖東エリア

33 佐和山城（彦根市） 24
34 彦根城（彦根市） 27
35 肥田城（彦根市） 31
36 山崎山城（彦根市） 31
37 目賀田城（愛荘町） 31
38 久徳城（多賀町） 31
39 敏満寺城（多賀町） 32

ハ 宗安寺（彦根市） 24
ヒ 彦根城博物館（彦根市） 27
フ 玄宮園（玄宮楽々園）（彦根市） 27
ヘ 金剛輪寺（愛荘町） 15
ホ 西明寺（甲良町） 15
マ 在士高虎公園（甲良町） 33

湖北エリア

40 上平寺城（米原市） 12
41 鎌刃城（米原市） 12
42 長比城（米原市） 32
43 弥高寺（米原市） 32
44 小谷城（長浜市） 16
45 横山城（長浜市・米原市） 16
46 虎御前山城（長浜市） 16
47 長浜城（長浜市） 17
48 田上山城（長浜市） 21
49 左禰山城（長浜市） 21
50 賤ヶ岳城（長浜市） 21
51 玄蕃尾城（長浜市） 22
52 上坂城（上坂氏館）（長浜市） 32
53 下坂氏館（長浜市） 32
54 三田村氏館（長浜市） 32

ミ 京極氏城館（米原市） 12
ム 番場資料館（米原市） 12
メ 大原観音寺（米原市） 17
モ 姉川古戦場（長浜市） 16
ヤ 浅井歴史民俗資料館（長浜市） 16
ユ 小谷城戦国歴史資料館（長浜市） 16
ヨ 大通寺（長浜市） 17
ワ 竹生島宝厳寺（長浜市） 33
キ 国友鉄砲ミュージアム（長浜市） 34

湖西エリア

55 清水山城館（高島市） 12
56 大溝城（高島市） 18
57 田中城（高島市） 32

エ 興聖寺（岩神館）（高島市） 12
ヲ 白鬚神社（高島市） 18

城郭用語辞典

城旅で出会う数々の城郭用語。知っておくとより一層楽しめる。

縄張（なわばり）
城の平面プラン、レイアウトのこと。縄張によって曲輪、虎口、門、堀などの配置を決めた。「縄張」という言葉は、縄を使ってプランを検討したことが由来とされる。

曲輪（くるわ）
城に設けられた区画のこと。最も重要かつ中心的な曲輪は「本曲輪」「主郭」「本丸」といった名称が用いられる。

土塁（どるい）
城や曲輪の防御のために、土を盛って造った土手。堀を掘った際に出た土を利用することも多い。土塁は曲輪を囲むように築かれるが、まれに山の斜面に沿って築かれた土塁（竪土塁）もある。

堀（ほり）
土を掘ってつくられた防御機能の一つ。高低差をつけることにより、敵の動きを阻む。水のない堀を空堀、水のある堀を水堀という。川を天然の堀として活用することもあった。山の等高線に沿って掘られたものを横堀、等高線に対し直角に設け斜面の横移動を防ぐものを竪堀といい、竪堀が連続して並ぶものを畝状竪堀群という。

水口城

虎口（こぐち）
城、曲輪の出入口のこと。土塁や石垣で囲った区画を設けた虎口は枡形虎口と呼ばれる。

堀切（ほりきり）
尾根をV字状に断ち切って築いた空堀。尾根伝いに移動する敵の動きを遮断することができる。

切岸（きりぎし）
曲輪の外側にある斜面を人工的に削ってつくった急勾配の崖。敵が簡単に曲輪に侵入できないようにするための工夫。

馬出（うまだし）
虎口前面の堀の外側に設けられた小曲輪、陣地。敵の侵入を防ぎ、城側の出撃の拠点となった。コの字状のものを角馬出、半円状のものを丸馬出という。

矢穴（やあな）
石垣用の石を割る際、鉄ノミで掘った長方形の穴のこと。矢穴を列状に掘り、鉄製のクサビ状の矢を穴に差し込み、上からゲンノウ（鉄製の槌、ハンマー）で叩いて石を割った。

刻印（こくいん）
石垣に用いられた石の表面に刻まれた印。公儀普請で築城する際には多くの大名が石垣工事を担当したため、運搬してきた石材に家紋や記号などの印を刻むことで所有者を明確にした。

石落（いしおとし）
天守や櫓の一部を石垣から張り出すようにして設けた狭間のこと。石垣をのぼって天守や櫓へ侵入しようとする敵を「石」を使って撃退するための防御機能であるという説があるが、これは江戸時代の軍学によって拡散された考えであり正しくない。実際には石落から火縄銃を用いて攻撃する。

現存天守（げんそんてんしゅ）
江戸時代につくられ、現在も残っている天守。日本全国に十二城しかない。彦根城は、そのうちの一つ。

模擬天守（もぎてんしゅ）
歴史上、天守が存在しなかった城に建てられた天守。または、天守は存在したが、往時とは外観や規模、場所などが異なる天守。

長浜城

櫓、櫓台（やぐら、やぐらだい）
城内の要所に置かれた建物。戦国期までは矢倉、矢蔵とも表記された。矢を射る高所「矢の座（くら）」が語源という説、矢を収納した「矢の倉」が語源という説がある。平時には主に武器庫として、戦時には周囲の監視や攻撃の拠点として使われた。櫓台は櫓を置く基壇のことをいう。

穴蔵（あなぐら）
天守台内部に築かれた地階。

陣城（じんじろ）
合戦における陣（野営地）を城郭化したもの。居城とは異なり、合戦のために臨時に築かれた城であったため、役割を終えると破棄された。

水城（みずじろ）
海、川、湖に面して築かれた城。【坂本城、長浜城、大津城、膳所城】

膳所城

境目の城（さかいめのしろ）
複数の勢力が争う領土の境界線、境目に築かれた城。国境を守るための支城。

野面積み（のづらづみ）
石の加工の程度による石垣の分類のひとつ。自然石をほぼ加工せず積み上げた石垣のことをいう。石の間に隙間が空くため、その間に小さな石を詰める。

小谷城

算木積み（さんぎづみ）
石垣の隅部の石の積み方のこと。長方形の石の長辺と短辺を互い違いに積み上げることにより、石垣の強度と安定感を高めた。

八幡山城

公儀普請（こうぎぶしん）
徳川幕府が全国の諸大名を使い、行った築城工事。天下普請、手伝い普請、割普請ともいう。費用はすべて大名が負担した。

登り石垣（のぼりいしがき）
山の斜面を登るように築かれた石垣のこと。山上を目指し斜面を登る敵の横移動を阻止する目的で築かれた。豊臣秀吉の命で行われた朝鮮出兵に際し、秀吉軍が現地で築いた城（倭城（わじょう））で新たに考案された手法とされる。

彦根城

彦根城

COLUMN

近江の戦国史概説

文 小和田 哲男
（日本城郭協会理事長）

賤ヶ岳から望む余呉湖

©今井一詞

Profile
小和田 哲男
1944年静岡市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学、文学博士。現在、静岡大学名誉教授、岐阜関ケ原古戦場記念館館長。戦国時代史を専門とし、主著に「戦国の城」など多数。

「戦国大名の登場」

わが国は六十六か国から成っている。六十六州ともいう。近江国（江州）もその一つであるが、日本歴史全体からみると、その位置づけは六十六分の一ではない。特に戦国時代についていえば、近江の歴史抜きに戦国史を語ることができないほどの重みを持っていたのである。

近江国は大きく北近江（江北）と南近江（江南）に分けてみることができる。戦国時代には、それぞれの地域を地盤とした戦国大名が登場している。北近江の浅井氏、南近江の六角氏である。実は、同じ戦国大名という範疇でくくられる両家であるが、成り立ち方は全くちがっていた。浅井氏は国人一揆からの戦国大名化であり、六角氏は、守護→守護大名→戦国大名と成長発展した家である。

北近江の守護は京極氏だったが、京極氏はそのまま戦国大名には転化できず、家臣だった浅井氏らが一揆を結んだ国人一揆に取って代わられている。戦国大名浅井氏初代が亮政で、そのあと、二代久政、三代長政と続き、「浅井三代」として知られている。この三代長政に嫁いだのが織田信長の妹お市の方で、この二人の間に生まれたのが茶々・初・江の三人で、「浅井三姉妹」といわれ、戦国史の重要な場面に登場することになる。

「琵琶湖水運と商品流通経済」

近江国には、京都と東国を結ぶ二つの主要街道が通っていた。東海道と東山道（のちの中山道）である。しかもまん中には琵琶湖があった。琵琶湖は物資輸送に欠かせない運河の役割を果たしていた。鉄道や道路が整備された現在、陸送が主であるが、前近代は舟を使った海上・河川輸送の水運が主だったのである。たとえば、日本海を使って若狭の敦賀・小浜あたりまで運ばれ、そこから琵琶湖畔まで陸送され、今津・塩津などの湊から再び舟で大津・草津・坂本などに運ばれたのである。まさに近江は、陸海の商品流通の最重要地点であった。近江商人が大活躍をしたのもそのためであり、豊臣秀吉の奉行となる石田三成ら、算盤ができる武士が多数輩出したのもそのためだった。秀吉の五奉行のうち三人までが近江出身だったこともそのことを証明している。

浅井長政とお市と家族像（長浜市）

「織田信長の近江支配」

戦国時代は、その名が示すように、全国的に戦国大名同士が戦いあう時代だった。群雄割拠の「ドングリの背くらべ」状態から頭一つ抜け出し、「天下布武」をスローガンに天下統一に向けて駒を進めたのが織田信長だった。尾張一国を支配するにすぎなかった信長が頭角を現わしたのは、永禄三年（一五六〇）五月十九日の桶狭間の戦いで、駿河・遠江・三河三か国を支配していた今川義元を破ってからである。

その後、美濃の戦国大名斎藤龍興を破り、斎藤氏の居城だった稲葉山城に移り、名を岐阜と変え、そこではじめて「天下布武」の印判を用いはじめたことはよく知られている。この「天下布武」は、以前は「武力によって天下を取ってやる」という意味にとられていたが、近年は、中世の三権門といわれる公家・寺家・武家の三つのうち、公家・寺家を抑え、武家による全国政権樹立へと変わっている。しかもこの「天下」は日本全国の意味ではなく、京都およびその周辺、つまり、五畿内の意味とされている。

信長は、そのあと、永禄十一年（一五六八）九月、足利義昭を擁して上洛し、十月には義昭を十五代将軍につけ、実権を握り、天正元年（一五七三）にはその義昭も追放し、実権を握ることに成功し、同四年（一五七六）に岐阜城から安土城に移っているのである。

信長が近江の安土を「天下布武」の本拠としたのは、信長が近江の重要性に目をつけていたからである。京都に近く、また、自身の本国ともいうべき尾張・美濃にも近いという地の利が最大の理由といえる。

しかも、自身は安土城を本拠にしながら、そのころ、一番頼りにしていた二人の重臣、すなわち明智光秀と羽柴秀吉を、光秀には坂本城、秀吉には長浜城を与えたのである。

彦根城

比叡山延暦寺

安土城

戦国近江を彩った英傑たち

戦国乱世のとき、
近江の山河を駆け抜けた
男たち、女たち。

織田信長（おだのぶなが）

織田信長画像（神戸市立博物館蔵）

一五三四年 尾張国生まれ。桶狭間の戦いで今川義元を破り、美濃を奪い足利義昭を奉じて室町幕府を再興した。上洛後、岐阜と京を結ぶ近江支配を図る。琵琶湖の水運を掌握するため、家臣らに湖岸の要地に城を築かせ、自らも安土城を築く。天下静謐のため勢力を拡大したが、一五八二年、本能寺宿泊中に明智光秀の襲撃に遭い自害した。

豊臣（羽柴）秀吉（とよとみ（はしば）ひでよし）

豊臣秀吉画像（大阪城天守閣蔵）

一五三七年 尾張国生まれ。諸国流浪して信長に仕える。信長の美濃攻めの頃から出世。最初木下藤吉郎を名乗る。小谷城攻めの功績により信長から浅井領を拝領し、長浜城を築いた。信長死後、柴田勝家を賤ヶ岳の戦いで破り、さらに徳川家康とも戦う。朝廷から関白に任じられ豊臣姓を賜る。一五九〇年、天下一統を果たした。

豊臣（羽柴）秀長（とよとみ（はしば）ひでなが）

豊臣秀長画像（春岳院蔵）

一五四〇年 尾張国生まれ。秀吉の弟。兄秀吉とともに信長に仕える。最初、信長から偏諱（へんき）を受け「長秀」と名乗る。兄とともに各地を転戦。信長死後の賤ヶ岳の戦いや四国攻めで活躍。戦後、紀伊・和泉に加え大和を与えられ、大和郡山城を居城とした。九州攻めの後に大納言に昇進した。兄を補佐し、その出世や天下一統の実現にもっとも貢献した。

徳川家康（とくがわいえやす）

徳川家康画像（大阪城天守閣蔵）

一五四二年 三河国生まれ。幼少期に織田家、次いで今川家の人質として成長。桶狭間の戦い後に独立し、三河を統一。小牧・長久手の戦いでは秀吉と対決するが戦後に秀吉に臣従。その妹と結婚し親族大名となる。関ケ原の戦いの後、近江に膳所城と彦根城を公儀普請で築城する。その後、征夷大将軍に任じられ江戸に幕府を開く。

豊臣（羽柴）秀次（とよとみ（はしば）ひでつぐ）

豊臣秀次像（近江八幡市）

一五六四年（生年は諸説あり）尾張国生まれ。秀吉姉の子。一時、阿波の三好康長の養子となる。小牧・長久手の戦い後、近江に所領を拝領。八幡山城を築いた。のちに秀吉から関白の位を譲られる。しかし、秀吉の子・秀頼が生まれると疎んじられ、一五九五年、謀反の疑いにより高野山に追放され、同地で自害した。

市（お市の方）（いち（おいちのかた））

お市の方画像（滋賀県立安土城考古博物館蔵）

尾張国生まれ。信長の妹。信長と同盟を結んだ小谷城主・浅井長政に嫁ぐ。長政との間に三人の娘をもうけたとされる。一五七三年、浅井氏滅亡後に織田家に戻る。一五八二年、清須会議の結果、柴田勝家に再嫁する。しかし、夫勝家は秀吉と対立し、賤ヶ岳で戦うが敗退。市は三人の娘を秀吉に預け、勝家とともに北庄城で自害した。

石田三成（いしだみつなり）

石田三成画像（大阪城天守閣蔵）

一五六〇年近江国生まれ。長浜城主であった秀吉に見出される。秀吉のもと軍事面では兵站、内政では地方大名との取次や検地に才を発揮。関白秀次の失脚後に佐和山城主となり、五奉行に昇進。秀吉死後、加藤清正ら武功派と対立。家康が会津上杉征伐に出陣中に上方で挙兵。関ケ原で徳川方と戦うも大敗。戦後に斬首された。

足利義輝（あしかがよしてる）

一五三六年生まれ。足利幕府十三代将軍。近江坂本で元服し、将軍宣下を受けた。幕府内の抗争によりしばしば近江坂本や朽木谷に逃れた。

足利義昭（よしあき）

一五三七年生まれ。室町幕府十五代将軍。一時甲賀にて居住。信長の支援を受け十五代将軍に就任。やがて信長と対立し、京都を追われた。

六角定頼（ろっかくさだより）

一四九五年生まれ。近江守護六角氏の当主。京都を追われた十二代、十三代足利将軍を援け勢力を拡大。六角氏全盛期を築いた。

蒲生氏郷（がもううじさと）

一五五六年 近江国生まれ。信長に見込まれ、娘冬姫と婚姻する。本能寺の変後、秀吉に属して活躍。陸奥会津九十二万石の大大名になる。

藤堂高虎（とうどうたかとら）

一五五六年 近江国生まれ。浅井氏家臣を経て秀長に仕官。秀長の家臣時代に家康と親交を結ぶ。外様ながら家康から厚い信頼を得ていた。

加藤清正（かとうきよまさ）

一五六二年 尾張国生まれ。秀吉、秀長とは縁戚の間柄。近江山崎山城の山崎氏の娘と婚姻。賤ヶ岳の戦いで活躍する。

六角義賢（承禎）（よしかた（じょうてい））

一五二一年 近江国生まれ。定頼の子。信長の上洛戦では戦わず観音寺城を捨て逃亡。のちにゲリラ戦で抵抗するも敗れた。

京極高次（きょうごくたかつぐ）

一五六三年 近江国生まれ。山崎の戦いでは明智方に味方。戦後、妹竜子の嘆願で秀吉に仕える。関ケ原の戦いでは家康方に立ち大津城に籠城した。

京極竜子（たつこ）（松の丸殿（まつのまるどの）／寿芳院（じゅほういん））

生年不詳。絶世の美女として知られ、山崎の戦い後に秀吉の側室となる。関ケ原の戦いの際、兄高次とともに大津城に籠城した。

茶々（淀殿）（ちゃちゃ（よどどの））

近江国生まれ。浅井三姉妹の長女。秀吉に嫁ぎ、鶴松、秀頼を産む。秀吉死後、秀頼を後見。大坂の陣で秀頼とともに自害した。

初（常高院）（はつ（じょうこういん））

近江国生まれ。浅井三姉妹の二女。秀吉の計らいで京極高次に嫁ぐ。大坂の陣の際、姉妹の嫁いだ豊臣・徳川両家の仲介に奔走した。

江（崇源院）（ごう（すうげんいん））

近江国生まれ。浅井三姉妹の三女。家康の嫡男徳川秀忠と婚姻する。秀忠との間には千姫（豊臣秀頼正室）、家光（三代将軍）をもうけた。

※尾張＝愛知県西部、三河＝愛知県東部、遠江＝静岡県西部、和泉＝大阪府南西部、大和＝奈良県、紀伊＝和歌山県、阿波＝徳島県

浅井長政（あざいながまさ）

近江国生まれ。信長妹の市と婚姻し、同盟を結ぶ。しかし、信長の朝倉攻めを機に反旗を翻し敵対。姉川の戦いを経て、小谷城を包囲され自害した。

柴田勝家（しばたかついえ）

生年不詳。尾張国生まれ。織田家重臣として信長を支える。信長軍の北陸方面軍の将として活躍。信長死後、秀吉と対立し、賤ヶ岳の戦いで敗れる。

明智光秀（あけちみつひで）

生年、生国不詳。流浪の末、信長に仕える。信長の延暦寺焼き討ちの後、坂本城を築く。一五八二年、本能寺で信長を自害させた。

大谷吉継（おおたによしつぐ）

一五五九年または一五六五年 近江国生まれ。秀吉に仕え軍事、内政で実績を残す。関ケ原の戦いでは石田三成とともに挙兵したが敗れて自害した。

田中吉政（たなかよしまさ）

一五四八年 近江国生まれ。信長、秀吉に仕える。秀吉の命により秀次の宿老に就任。関ケ原の戦いに敗れた石田三成を捕縛した。

井伊直政（いいなおまさ）

一五六一年 遠江国生まれ。家康の重臣。精鋭軍団「井伊の赤備え」を率いた。関ケ原の戦い後、佐和山城を与えられた。

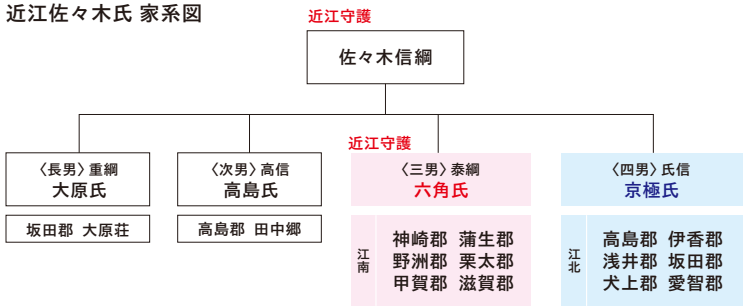
近江の戦国争乱Ⅰ

六角氏と京極氏の城

戦国時代、近江において勢力を二分していた六角氏と京極氏は、近江源氏の流れをくむ佐々木氏の一族。承久3年(1221)の承久の乱で活躍した佐々木信綱の4人の子のうち、三男が守護職と嫡流の地位を受け継ぎ六角氏を称し、四男は京極氏を称した。両氏は近江支配をめぐって戦国期まで争った。

▲六角定頼像（東近江市）

近江佐々木氏 家系図



鎌倉時代、近江守護職を世襲してきた佐々木氏は信綱の子の代に大原、高島、六角、京極の四氏に分流した。守護職を受け継いだ六角氏が江南（南近江）、南北朝時代以降、台頭した京極氏が江北（北近江）を支配した。

観音寺城

近江八幡市・東近江市

近江の守護・佐々木六角氏の居城

小脇館（東近江市）、金剛寺館（近江八幡市）などに居館を構えていた佐々木六角氏であったが、十四世紀前半に近江で内乱が勃発すると観音寺に城郭を構えた。一五六八年、織田信長に攻められた六角義賢・義治父子は城を放棄し甲賀へと逃れ、その後、廃城となった。

繖山山頂から南斜面に広がる曲輪跡には石垣が良好に残る。安土城に先駆けて本格的な石垣を導入した画期的な城である点も興味深い。中世五大山城。国指定史跡。

近江八幡市安土町石寺
0748-46-4234（安土駅観光案内所）

観音正寺

西国三十二番札所。繖山の山上に建立され、戦国期に六角氏が一帯を城郭化。一時荒廃したが、江戸時代に現在地に復興された。

近江八幡市安土町石寺2

桑実寺（桑峰薬師）

戦国時代、都を追われ六角氏を頼った12代将軍足利義晴が数年間に亘って滞在。一時期仮の幕府が置かれた。

近江八幡市安土町桑実寺292

戦国時代、六角氏は江南で勢威を奮った。一方、京極氏は江北で六角氏に対抗。両氏の勢力境界には多くの「境目の城」が築かれた。一方、湖西を領した高島氏の一族が清水山城館を築き本拠とした。

上平寺城

米原市

伊吹山の南麓に築かれた京極氏城館の詰城

一五〇五年、京極高清が築城。北近江の政治文化の中心だったが、一五二三年に家臣団によるクーデターが起き高清は逃亡。廃城となった。大規模な土塁や堀切、畝状竪堀群などが良好に残る。これらは後に城を改修した浅井長政の手によるものと考えられる。国指定史跡。

米原市弥高
0749-51-9082（米原駅観光案内所）

京極氏城館

江北に勢力を伸長させた京極氏が伊吹山腹に築いた上平寺城とともに造営した山麓居館跡。池泉回遊式の庭園跡が残る。

米原市上平寺

清水山城館

高島市

湖西一の規模を誇る山城

城主は佐々木越中氏とされているが、築城者は史料がなくはっきりしない。戦国時代後期、織田信長の侵攻に備え、浅井・朝倉氏が改修したとみられる。曲輪や土塁、堀切、畝状空堀、屋敷地などが約一キロ四方の範囲に残る。国指定史跡。

高島市新旭町熊野本・安井川
0740-33-7101（（公社）びわ湖高島観光協会）

興聖寺（岩神館）

京から落ち延びた足利将軍が滞在した岩神館跡地。亡命した将軍を慰めるために作庭された旧秀隣寺庭園が残る。

高島市朽木岩瀬374

鎌刃城

米原市

江北と江南の国境に位置する境目の城

築城時期は不明だが、一四七二年には、江北を支配下に置いた京極方が江南を領地とする六角方の守る鎌刃城を攻めたという記録がある。湖北最大級の規模を誇る山城であり、土塁、大堀切、畝状竪堀群、石垣が囲む枡形虎口など見どころが多い。国指定史跡。

米原市番場
0749-51-9082（米原駅観光案内所）

番場資料館

中山道の宿場だった番場宿のこと、さらに鎌刃城についての資料や模型が展示されている（土・日のみ開館）。

米原市番場1838

近江の戦国争乱Ⅱ

足利将軍と近江の城

応仁・文明の乱の後に9代将軍義尚は、近江守護の六角討伐を実施したが陣中で没した。跡を継いだ10代義稙も六角討伐を行ったが、管領細川氏により将軍の座を追われた。その後11代義澄、12代義晴、13代義輝、15代義昭らも後継争いや細川氏やその被官（家臣）三好氏の抗争に巻き込まれ、しばしば近江に逃れた。

足利義輝画像（国立歴史民俗博物館蔵）▲

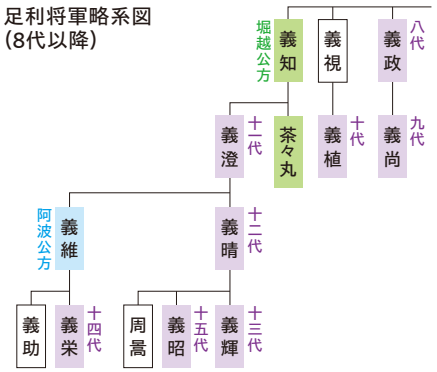
三雲城（みくも）　湖南市

六角氏の重臣として活躍した三雲氏の城

戦国の混乱が深まる中、九代将軍・足利義尚による六角討伐がはじまった。それに伴い高頼は、一四八七年、三雲典膳に命じて三雲城を築かせたと伝わる。この城は六角氏の本城・観音寺城の詰城としての役割を持っており、高頼のほか、一五六八年に観音寺城が織田信長に攻められた際に六角義賢・義治父子が逃れてきたとされる記録が残る。

馬の背道と呼ばれる土塁の先、主郭から東に降りたところに八メートルを超える巨岩がある。八丈岩と呼ばれる巨岩近くには、六角氏の家紋「隅立て四つ目」の刻印が見られる。落ちそうで落ちないこの岩は大きな見どころの一つである。矢穴の残る石によって築かれた石垣は、六角氏の時代のものと思われる。早い段階から石垣を導入していた城である点にも注目したい。巨石を用いた枡形虎口も見逃せない。

足利将軍略系図（8代以降）



応仁・文明の乱の結果、足利将軍の求心力は低下し、群雄割拠の戦国時代が幕を開けた。しかし、室町幕府はすぐには滅びず歴代将軍たちは約100年に亘り各地の戦国大名らに影響力を行使した。

国宝湖南三山（常楽寺、長壽寺、善水寺）

創建が奈良時代にさかのぼる天台宗の古刹「常楽寺」、「長壽寺」、「善水寺」。それぞれ国宝の建築物を有する。

〈常楽寺〉湖南市西寺6-5-1、〈長壽寺〉湖南市東寺5-1-11、〈善水寺〉湖南市岩根3518

湖南市吉永　0748-71-2157（湖南市観光協会）

新宮城・新宮支城（しんぐうじょう）　甲賀市

甲賀最大規模の土塁が残る甲賀郡中惣の城

国指定史跡・甲賀郡中惣遺跡群を構成する城だが、来歴や城主などは、はっきりしない。両城共に南北約六十メートル、東西約六十メートルの方形の本丸を備えており、周囲を土塁が巡る。いずれも高さがあり、新宮支城の南西隅部の土塁は九メートルを超える。

甲賀市甲南町新治
0748-69-2250（甲賀市教育委員会歴史文化財課）

甲賀流リアル忍者館

甲賀流忍者をテーマにした総合観光案内所。五頓の術にまつわる体験コーナーやリアル忍者に関する展示がある。

甲賀市甲南町竜法師600 忍の里プララ内

寺前城（じぜん）・村雨城（むらさめ）　甲賀市

同一の尾根に築かれた群郭方形型の城館

両城は、大堀切を隔て南北に隣接する形で築かれている。別城とされるが、寺前城を副郭、村雨城を主郭とする見方もある。いずれも方形の本丸周囲には高さのある土塁が残る。甲賀郡中惣遺跡群として国指定史跡。

甲賀市甲南町新治
0748-69-2250（甲賀市教育委員会歴史文化財課）

和田城（わだ）　甲賀市

和田谷に築かれた和田城館群の一つ

七つの城館から成る和田城館群の中心的な城。主郭を囲む土塁や虎口、堀切などが残る。

一五六五年に十三代将軍・義輝が暗殺されると、城主・和田惟政は一乗院覚慶（後の足利義昭）を城館群内でかくまったとされる。

甲賀市甲賀町和田
0748-69-2250（甲賀市教育委員会歴史文化財課）

小堤城山城（こづつみしろやま）　野洲市

湖南地域最大規模を誇る山城

六角氏のもとで軍事・行政の中枢を担った永原氏が築城した山城とされる。石垣は城内各所で見られる。特に大きな石材は登城ルート沿いに使われていることから、防御以外に「見せる」ことを意識した可能性がある。

野洲市小堤　077-587-3710（野洲市観光物産協会）

鈎陣所（まがりのじんしょ）（永正寺）

永正寺は六角氏討伐のため9代将軍足利義尚が構えた陣所と伝わる。寺周辺には土塁や堀が残る。

栗東市上鈎270

戦国期の足利将軍は、9代義尚が鈎（栗東市）、11代義澄が水茎岡山城（近江八幡市）、12代義晴・13代義輝が朽木（高島市）、坂本（大津市）、15代義昭が和田（甲賀市）などに滞在した。

近江の戦国争乱Ⅲ

信長と戦った城・寺院

元亀元年（1570）4月、織田信長は越前朝倉攻めの途中、浅井氏の同盟破棄により撤退。同年6月信長は姉川の戦いで浅井・朝倉連合軍を破ったが、大坂本願寺や六角氏も立ち上がり信長と敵対した。これに対し信長は比叡山延暦寺を焼き討ちにし、小谷城を攻めて浅井氏を滅ぼした。

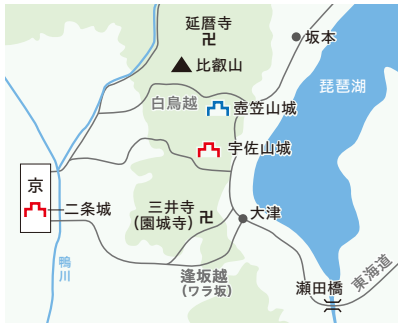
浅井長政像（長浜市）▲

比叡山延暦寺（ひえいざんえんりゃくじ） 大津市

一二〇〇年以上の歴史を誇る日本天台宗総本山

一七〇〇ヘクタールに及ぶ広大な境内は東塔、西塔、横川の三つに区分されており、約一〇〇の堂宇が点在する。西塔にある瑠璃堂（重要文化財）は、信長による焼き討ちを逃れた唯一の建物とされる。ケーブル坂本駅から東塔までケーブルカーで行くこともできる。ユネスコ世界文化遺産。

📍大津市坂本本町4220 ☎077-578-0001



織田軍の城　浅井・朝倉軍の城

姉川の戦いの3か月後、信長は再び坂本（大津市）で浅井・朝倉軍と対峙した（志賀の陣）。信長は浅井・朝倉軍を比叡山に追い込むが、延暦寺は浅井・朝倉を匿い信長と敵対した。信長は、翌元亀2年（1571）9月に延暦寺を攻め、湖南を制圧した。

日吉大社

全国3,800余社の日吉・日枝・山王社の総本宮。境内を流れる大宮川に架かる日吉三橋は、豊臣秀吉の寄進と伝わる。寛文9年(1669)に現在の石橋に架け替えられた。

📍大津市坂本5-1-1

百済寺（ひゃくさいじ） 東近江市

自衛のために堀や土塁などを築いた城郭寺院

一五六八年以降、信長の侵攻に備え城郭としての機能をさらに強化したようだが、一五七三年、信長により焼き払われた。江戸時代に再興。本堂（国重要文化財）、喜見院書院（国登録有形文化財）などが残る。国指定史跡。

📍東近江市百済寺町323 ☎0749-46-1036

西明寺

信長の湖東侵攻により多くの伽藍が焼失したが、三重塔、本堂は兵火を免れた。ともに鎌倉期の建築で国宝に指定されている。

📍犬上郡甲良町大字池寺26

金剛輪寺

信長の湖東侵攻の際、僧侶の機転で兵火を逃れたという。鎌倉期に建てられた国宝の本堂と名勝庭園が見どころ。

📍愛知郡愛荘町松尾寺874

元亀3年（1572）7月、織田軍は虎御前山を占拠。翌天正元年（1573）織田軍は山本山城の阿閉氏が投降すると小谷城の北の山田山を占拠し、城を完全に包囲した。後詰めに来た朝倉軍は退却し、小谷城は孤立した。

姉川古戦場

元亀元年（1570）、織田・徳川連合軍と浅井・朝倉連合軍が激戦を繰り広げた姉川の戦い。野村橋のたもとに慰霊碑が立つ。

📍長浜市野村町一帯

小谷城（おだに城） 長浜市

日本五大山城にも数えられる浅井氏三代の居城

浅井亮政が大嶽（おおづく）に城を築き、二代久政、三代長政が改修を重ねた。一五七三年、信長との戦いに敗れ落城。久政・長政父子は自刃した。城は標高四九五メートルの小谷山の山頂に構えられた大嶽、中腹の尾根筋に連なる大規模な曲輪群、山麓の清水谷に築かれた居館跡等で構成されている。曲輪群には、巨石が際立つ黒金御門、中丸虎口前面の大堀切、山王丸東面の大石垣など多くの見どころがある。展望所からは虎御前山城が見える。国指定史跡。

📍長浜市小谷郡上町、湖北町伊部
☎0749-53-2650（（公社）長浜観光協会）

小谷城戦国歴史資料館

小谷城がある小谷山の山麓に位置する。浅井氏三代（亮政、久政、長政）と小谷城をテーマに絵図や出土した遺物等を展示。

📍長浜市小谷郡上町139

浅井歴史民俗資料館

郷土学習館・糸姫の館・鍛冶部屋・七りん館の4施設からなる資料館。郷土学習館では浅井氏に関する資料や小谷城の模型を展示。

📍長浜市大依町528

横山城（よこやまじょう） 長浜市・米原市

秀吉が城番をつとめた小谷城攻略の拠点

姉川の戦い後、信長が攻略。小谷城落城までの約三年、攻撃の拠点とした。城は北城と南城に分かれる。北城に二重堀切、南城に土塁や虎口などが残る。北の尾根続きには、姉川の戦いで信長が本陣を置いた龍ケ鼻砦がある。

📍長浜市石田町 ☎0749-64-0395（長浜市文化財保護センター）

虎御前山城（とらごぜんやまじょう） 長浜市

小谷城を睨む織田軍の最前線基地

一五七二年、小谷城を落とせずにいた信長が築いた。虎御前山の尾根上には六〇〇メートルに渡り曲輪が築かれている。最高所に信長、最北端には秀吉の陣があったとされる。土塁、堀切、虎口、竪堀などが良好に残る。

📍長浜市中野町・湖北町河毛 ☎0749-65-6521（長浜市文化観光課）

織田信長と近江

〈湖上ネットワーク〉の城

元亀元年（1570）から3年余にもおよんだ“元亀争乱”を通じて
近江支配の重要性を認識した織田信長は、琵琶湖の水運と
周囲を走る街道を押さえるべく湖岸の要所に水城を築かせた。
後に自らも安土城を築き、近江支配の拠点とした。

織田信長像（近江八幡市）▲

近江は国自体が交通の結節点であった。その中で安土は岐阜と京の中間にあり、近江の中央に位置する。信長は、東西交通の幹線であった東山道と並行する道*や湖岸の常楽寺湊も城下町に取り込み、安土を中心とした水陸の交通網を整備した。

＊東山道（上街道）に対し下街道と呼ばれ、のちに朝鮮通信使が通ったことから朝鮮人街道と呼ばれた。

長浜城（ながはま）　長浜市

秀吉が初めて城持ち大名として築いた琵琶湖畔の居城

一五七三年、信長に攻められた浅井長政は自刃。信長から浅井氏の領地を拝領した秀吉は「今浜」の地を「長浜」と改め、城を築いた。一六一五年の廃城後は跡形もなく取り壊され、石垣などが彦根城の建設のために使われた。城跡には模擬天守の歴史博物館が建つ。

長浜市公園町10-10
0749-63-4611（長浜城歴史博物館）

大原観音寺

少年期の石田三成が修行をしたといわれる寺院。鷹狩りの帰路に立ち寄った秀吉に「三献茶」を振る舞い、その聡明さを見出された逸話で有名。

米原市朝日1342

大通寺

総ケヤキ造りの山門、伏見城の遺構と伝えられる本堂や大広間、長浜城の大手門を移築した脇門、狩野派絵師の手による襖絵も鑑賞できる。

長浜市元浜町32-9

大溝城（おおみぞ）　高島市

琵琶湖の内湖・乙女ヶ池を堀とした水城

一五七八年、織田信澄が築城した。縄張は、信澄の義理の父・明智光秀と伝わる。有事の際には、安土城の信長に狼煙で急を知らせ、琵琶湖を渡り援軍が駆けつける構想があったとも考えられている。かつての堀である乙女ヶ池や巨石を用いた天守台の石垣が残る。

高島市勝野
0740-33-7101（（公社）びわ湖高島観光協会）

白鬚神社

湖中に朱塗りの鳥居が立ち、国道161号をはさんで社殿が鎮座する。現在の本殿は、秀吉の遺命によって造営された。

高島市鵜川215

坂本城（さかもと）　大津市

豪壮華麗と謳われた光秀の城

一五七〇年、比叡山焼き討ち後に築城。安土城よりも四年早く天主が造営されたとされる。一五八二年焼失。その後、再建されたが一五八六年に廃城。湖中に石垣の一部を残す以外、ほぼ痕跡は残らないが、二〇二三年度、石垣が発見され、注目を集めた。二〇二五年九月に国指定史跡となった。

大津市下阪本3-7　077-578-6565（坂本観光案内所）

西教寺

比叡山焼き討ちにより荒廃したが、明智光秀が復興に尽力した。寺内には光秀ゆかりの品の展示や明智一族の墓もある。

大津市坂本5-13-1

安土城（あづち）　近江八幡市・東近江市

安土山一帯に築かれた織田信長最後の居城

一五七六年、信長は琵琶湖東岸のほぼ中央に位置する交通の要衝に城を築いた。山上には五層七階の豪華絢爛な天主がそびえ、建造物には瓦が葺かれ、城全域には高石垣が築かれた。この画期的な城郭は、以降に築かれる城の手本となった。

一五八二年、本能寺の変の後、天主をはじめとする主郭部が焼失。石垣を残すのみとなった。信長の死後、明智光秀、織田信孝、羽柴秀吉、織田信雄が入り機能したが「小牧・長久手の戦い」後、羽柴秀次の八幡山城築城により、廃城にいたったと考えられる。

大手道と呼ばれる直線の道の両脇には、家臣団の屋敷と伝わる曲輪が残る。加工しない自然石を用いて築かれた野面積みの石垣には、多くの石垣集団によって築かれたと思われる様々な技法が用いられ、その多様な姿も魅力である。伝二の丸には信長廟、最高所には不等辺多角形の天主台と穴蔵の礎石が残る。

信長の菩提寺・摠見寺が今も城跡を守り続けている。国指定特別史跡。

近江八幡市安土町下豊浦
0748-46-6594（安土山保勝会）

「幻の安土城・見える化」プロジェクト進行中！

デジタル技術を活用した安土城の「見える化」プロジェクトでは、城内16のスポットにて、復元VR・ARや歴史解説、発掘調査の成果といった情報をアプリを通して発信しています。2025年度から運用を開始し、言語も8か国語に対応する仕様です。

幻だった安土城の全容がもっと想像できるようになる

こちらもおすすめ！

D 旧伊庭家住宅

築100年超！ヴォーリズの名建築

洋風建築の住居の中に和を融合させた贅沢な造りが特徴。

E セミナリヨ史跡公園

日本初のキリスト教学校

信長庇護のもと、宣教師が開校した学校推定地。

F 摠見寺（そうけんじ）

現存する二王門と三重塔が壮観！

信長が安土山に建立し、自らの菩提寺とした寺院。

G まけずの鍔本舗 万吾楼（つばもほまんごろう） まけずの鍔 1個210円（税込）

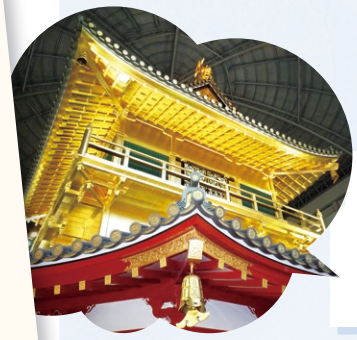
信長愛刀の鉄鍔を型取った名物最中

2種類の自家製餡を滋賀羽二重餅の皮で包む絶品和菓子。
※価格は変更する場合があります

H 沙沙貴神社（ささき）

厳荘的な楼門は県の有形文化財

『信長公記』にも登場する神社で、全国の佐々木姓のルーツ！



内藤昌 復元©

＼お城好きなら　見逃せない！／

築城450年 安土城 もっと が見えてくる！

文 いなもと かおり
（城マニア・観光ライター）

Profile
國學院大學文学部史学科卒。19歳の時に会津若松城に一目惚れし城の虜となる。日本城郭検定1級、国内旅行業務取扱管理者の資格をもつ。著書『城めぐりは一生の楽しみ』（KADOKAWA）。

「近世城郭の出発点」と評される安土は、楽市楽座をはじめとする都市政策を実施したことにより多くの人で賑わいました。さらに、セミナリヨ建設を許可したことで多文化が共生する国際都市の顔もあったのです。

レンタサイクルで効率良く回ろう！

安土観光レンタサイクル ふかお
JR安土駅北口すぐ
0120-08-3190
8:00 ～ 18:00

安土駅前レンタサイクル たかしま
JR安土駅北口すぐ
0748-46-3266
8:15 ～ 17:15

A 滋賀県立 安土城考古博物館

2025年春リニューアル！没入感を味わえる巨大シアター

最新の研究成果に基づき安土城の姿が蘇る！信長自ら案内するドラマ仕立ての映像コンテンツも見どころです。

近江八幡市安土町下豊浦6678
0748-46-2424

Check! 戦国合戦カレー

お皿の上で繰り広げる姉川の戦い

C 安土城郭資料館

内藤昌 復元©

全体像・内部構造がまるわかり 1／20スケールの天主雛形

外観5層内部7階の安土城天主を20分の1で再現した雛形。分割式のため内部構造まで詳細に鑑賞できます。

近江八幡市安土町小中700　0748-46-5616

Check! カプチーノ らんまる

森蘭丸がモチーフのご当地キャラ

Check! 御城印

力強く繊細な城を切り絵で表現

Check! 信長の甲冑

南蛮甲冑を着て信長なりきり写真を撮ろう

※有料：費用はお問い合わせください

Check! 五階・六階の外観

六階外壁は金箔10万枚を使用！

B 安土城天主 信長の館

天主の一部を原寸大で再現。現代に復活した信長の最高傑作！

宇宙を表現した正八角形の空間や狩野永徳らが描いた障壁画など、煌びやかな天主望楼部分を展示する施設。

近江八幡市安土町桑実寺800
0748-46-6512

内藤昌 復元©

COLUMN

賤ヶ岳城塞群について

文 中井 均
（滋賀県立大学名誉教授）

はじめに

賤ヶ岳合戦が築城戦であったことはほとんど知られていない。実は羽柴秀吉軍、柴田勝家軍ともに陣城と呼ばれる防御施設を築いており、その数は両軍合わせて二十城に及んでいる。柴田勝家軍は天正十一年（一五八三）二月末には出陣して、賤ヶ岳周辺に布陣して陣城を構えている。羽柴秀吉軍も三月十九日に木之本へ出陣しており、四月二十～二十一日にかけての戦いまで約一か月間は両軍とも陣城を構えて対峙していたのである。その陣城の痕跡が今も賤ヶ岳周辺に見事に残されている。

田上山城

羽柴軍の配陣は最前線の第一陣を左禰山（東野山）城、堂木山城、神明山城とし、第二陣として賤ヶ岳城、大岩山城、岩崎山城を構え、最奥部に本陣として築かれたのが木之本宿背後の田上山城であった。秀吉は賤ヶ岳の戦いの指揮を弟秀長に任せ、自らは長浜に戻っている。そして秀長が居陣としたのが田上山城である。

その縄張りは方形に整えられた本丸と三方に伸びる尾根上に副郭となる曲輪を配置している。特に注目されるのは柴田軍側の北方尾根に構えられた副郭の虎口である。虎口の前方に「コ」の字状の茅の土塁が構えられている。これは虎口防御と賤ヶ岳方面からの敵に対する攻撃用の土塁であり、角馬出として評価できる。

さらに注目されるのはこの茅土塁の北方約二〇〇メートルに構えられた出枡形である。北方尾根に対する遮断線として構えられたもので、出枡形と田上山城間の平坦地は兵の駐屯地として利用されたものと考えられる。

左禰山城と賤ヶ岳城

最前線の右翼に築かれた左禰山城には堀秀政が入れ置かれた。土塁と横堀によって矩形に折り曲げられた曲輪を配置しているが、曲輪内にも土塁が複雑に配置されており迷路状となっている。兵の駐屯地という陣城ではなく、関所として敵の進路を防ぐ目的で構えられたものであることがよくわかる。

一方、第二陣として築かれた賤ヶ岳城は自然地形に合わせた小規模な曲輪と柴田軍側に続く尾根を遮断する堀切を設けるだけの極めて簡単な構造となる。これは大岩山城も岩崎山城も同様で、明確に最前線の陣城とは構造に差異が認められる。

『賤ヶ岳合戦図屏風』右隻一部
（岐阜市歴史博物館蔵）

玄蕃尾城

こうした秀吉軍の陣城に対して柴田軍の陣城は佐久間盛政の行市山城など簡単な構造のものが大半である。これは進軍を軍事目的とした柴田軍としては当然の普請である。そうした柴田軍の陣城のなかで勝家の本陣となった玄蕃尾城の規模と構造は異彩を放っている。方形の本丸の東北隅には櫓台を構えている。礎石が点在していることより実際に櫓が構えられていたようである。その位置、規模から天守と呼んでもよいだろう。本丸周囲の土塁と横堀は大規模で、他の陣城とは比較にならない。

主郭の虎口前面には「コ」の字状の土塁と横堀が巡る角馬出が構えられている。北方には本丸よりも広い扇型の曲輪が構えられているが、これは越前側に構えられた兵站基地で、物資集積地として構えられた曲輪と見られる。

おわりに

こうした陣城が賤ヶ岳合戦図屏風に見事に描かれている。土塁上に構えられた塀や櫓は鼠色で土塀であったことを示している。さらに屋根は板屋根に描いている。土塀には上下二段に狭間が描かれ、上段には鏃が、下段からは鉄砲が突き出ている。立射の弓と座射の鉄砲を描いているのである。屏風に描かれた陣城は当時の姿を描いているものと見てよいだろう。

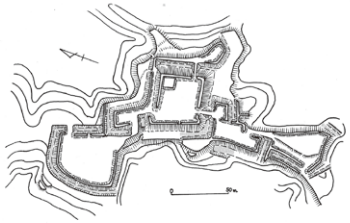
合戦終了とともにこうした陣城も使われなくなってしまい草木に埋もれてしまった。しかし、現在も当時の普請をそのまま残している。そうした遺構をぜひ訪ねていただきたい。

DATA

田上山城	長浜市
長浜市木之本町木之本	
左禰山城	長浜市
長浜市余呉町東野	
賤ヶ岳城	長浜市
長浜市木之本町大音	
玄蕃尾城	長浜市
長浜市余呉町柳ヶ瀬	

玄蕃尾城跡本丸の櫓台

玄蕃尾城跡の土塁

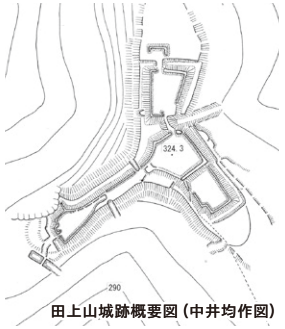


玄蕃尾城跡概要図（中井均作図）

田上山城跡北外郭の出枡形

田上山城跡北曲輪
虎口前面の土塁

田上山城跡北外郭出枡形（中井均作図）



田上山城跡概要図（中井均作図）

Profile

中井 均●一九五五年大阪府生まれ。龍谷大学文学部史学科卒業。日本城郭協会評議員。博士（文学）。主な著書に『中世城館の実像』、『戦国期城館と西国』、『織田・豊臣城郭の構造と展開上・下』ほか多数。

豊臣秀吉・秀次と近江

豊臣政権の城

小牧・長久手の戦いの翌天正13年（1585）、豊臣（羽柴）秀吉は対東国戦に備え、近江に甥・秀次とその宿老を配した。八幡山城、水口岡山城、佐和山城はいずれも主要街道を扼する立地に築かれた。さらに秀吉は琵琶湖から大坂への物流確保のため大津城を築城。近江国内の城郭網を完成させた。

▲豊臣秀次像（近江八幡市）

八幡山城 近江八幡市

安土城に代わる豊臣政権近江支配の拠点

一五八五年、築城。一五九〇年、秀次が尾張（愛知県西部）へ移封になると、京極高次が入城した。その翌年、秀吉から関白職を譲られた秀次だったが、秀吉に実子・秀頼が生まれると関係が悪化。一五九五年には高野山へ追放され、秀次は自刃した。同年、秀次の城であることを理由に廃城となった。

城郭は大きく山麓の居館と山上の城に分かれる。いずれも見事な高石垣が見どころである。山麓の秀次館跡にも高石垣が築かれており、巨石を用いた枡形虎口も構えられている。山上には本丸を中心に曲輪群が広がる。石垣は隅部が算木積み、矢穴痕のある石材も使用されていることから京極氏による改修の可能性も考えられる。木の整備が行われたことにより出丸の石垣が城下からもよく見えるようになった。山上の登山口まで八幡山ロープウェーで行くことができるのも魅力だ。

八幡堀

八幡山城の築城とともに開削された水堀。堀の内側が武家地で外側は商人町とした。琵琶湖に直結させ物資が運び込まれた。

近江八幡市宮内町一帯

村雲御所 瑞龍寺門跡

秀次の母瑞龍院日秀尼（秀吉姉）が、秀次の菩提を弔うため建立。昭和37年（1962）に現在地に移築された。

近江八幡市宮内町19-9

日牟禮八幡宮

近江の守護神として崇められてきた古社。秀次が八幡山に築城する際に山頂にあった上の八幡宮を山麓の下社に合祀した。

近江八幡市宮内町257

新町通りの町並み

秀次によって開かれた城下町のうち、商人町は碁盤目状に区画された。江戸時代に活躍した近江商人の商家が立ち並ぶ。

近江八幡市新町

近江八幡市宮内町 他
0748-33-6061
（近江八幡駅 北口観光案内所）

佐和山城 彦根市

豊臣政権の中枢を担った石田三成の居城

鎌倉時代初期に佐々木定綱の六男・時綱が麓に館を構えたのが始まりとされる。戦国期には江北と江南の勢力がぶつかる境目の城となった。

一五八五年に堀尾吉晴が入城。一五九〇年には石田三成が城主となり、天守が築かれた。関ケ原の戦いで西軍が敗北すると三成は処刑され、井伊直政が城主となった。一六〇四年、彦根城着工に伴い破却。建物の一部は彦根城に利用されたとも伝わる。本丸にわずかに石垣が残る。

彦根市古沢町
0749-30-6120（彦根市役所 観光交流課）

秀吉は秀次を支えるため譜代家臣の田中吉政、山内一豊、堀尾吉晴、中村一氏、一柳直末を宿老として付属させた。秀次領国は畿内防衛の役目もあり、吉政は八幡山城で秀次を補佐し、長浜城に一豊、佐和山城に吉晴、水口岡山城に一氏、美濃大垣城に直末が入城した。

※天正14年（1586）大津城の完成とともに坂本城は廃城になったと考えられる。

宗安寺

佐和山城の廃城後に現在地に移転。石田三成の地蔵尊を安置する。山門は佐和山城の門を利用、本堂は長浜城の付属御殿を移築したと伝えられる。

彦根市本町2-3-7

水口岡山城 甲賀市

甲賀郡で最初の大規模な織豊系城郭

一五八五年、秀吉は東海道を見下ろす古城山に城を築かせた。築城主は豊臣政権の中枢を担う中村一氏。一六〇〇年、関ケ原の戦いでは城主・長束正家が西軍（豊臣方）に属したため、合戦後、徳川に政権が移ると破却された。山上部には曲輪が並び、堀切、竪堀、竪土塁などが残る。破城となったため石垣はほぼ残らないが、本丸に野面積みの石垣が見られる。国指定史跡。

甲賀市水口町水口　0748-69-2250（甲賀市教育委員会歴史文化財課）

大津城 大津市

水運と陸路を結ぶ湖上交通の要の城

琵琶湖で運ばれてきた物資を陸に上げ、京や大坂へ送る新たな中継地として、一五八六年に築かれた。

秀吉の死後、関ケ原の戦いがおきると、城主・京極高次は西軍に寄与したが、出兵の途中で西軍を離れ大津へと引き返した。その結果、西軍からの猛撃を受け、降伏・開城した。翌年、徳川により膳所城が築城されると石材や材木はすべて持ち運ばれた。川口公園がかつての中堀と推定されるほか、曳山展示館の裏手には外堀の石垣と思われる遺構が確認できる。

大津市浜大津
077-522-3830（大津駅観光案内所）

大津市歴史博物館

三井寺北隣に位置する歴史博物館。常設展示では坂本城の出土品、大津城推定縄張図、膳所城の復元模型などを展示。

大津市御陵町2-2

秀吉・秀長・秀次と近江

文 柴 裕之（歴史学者）

秀吉が築いた長浜

羽柴秀吉（一五三七～九八。一般には「豊臣秀吉」として知られるが、一族ともども苗字は終生「羽柴」で、豊臣は氏姓である）と近江との関係は、織田信長（一五三四～八二）と敵対した江北の国衆（小大名）の浅井家攻めで、横山城（長浜市）城将を務めたことに始まる。天正元年（一五七三）九月、浅井家が滅びると、秀吉は信長から功績を賞され、旧浅井領（以下、「長浜領」。現在の長浜市を中心とした政治領域）を与えられた。

秀吉は、長浜領支配の拠点として、最初浅井家の居城であった小谷城（長浜市）に入ったが、水陸交通上の利便性から今浜の地に新たに居城を築き、「長浜」と改めて移った。その際に、小谷城下や近隣の町を移し、人を集めるために諸税や労働負担の免除をおこなうなどして、長浜城下の町づくりを進めた。その後、秀吉は長浜を離れ、天下人へと歩んだが、長浜町人との交流は続き、秀吉から認められた特権は長浜町の繁栄をもたらしていったとされる。

「豊臣兄弟」の始動

秀吉の弟・秀長（一五四〇～九一）の活躍がみられ始めるようになったのも、近江だった。それまで秀長は、「木下長秀」を名乗って（天正十二年（一五八四）九月までは、「長秀」を名乗っているが、以下「秀長」とする）、信長の直臣として行動し、秀吉との関係は政治・軍事面で活動を一緒にすることがある与力の立場だった。そのため、秀長は時には秀吉と行動を別にすることもあった。

やがて、秀長は秀吉に従い長浜に移り活動しだすと、天正三年（一五七五）十一月以降になると、兄と同じ羽柴の苗字を名乗る。以後、秀長は秀吉を支える一門衆（血縁的一族）として行動をともにし、天下人秀吉の誕生と豊臣政権の運営に力を尽くしていく。まさに「豊臣兄弟」としての活躍が、この近江の地から始まったのである。

秀次と近江八幡の発展

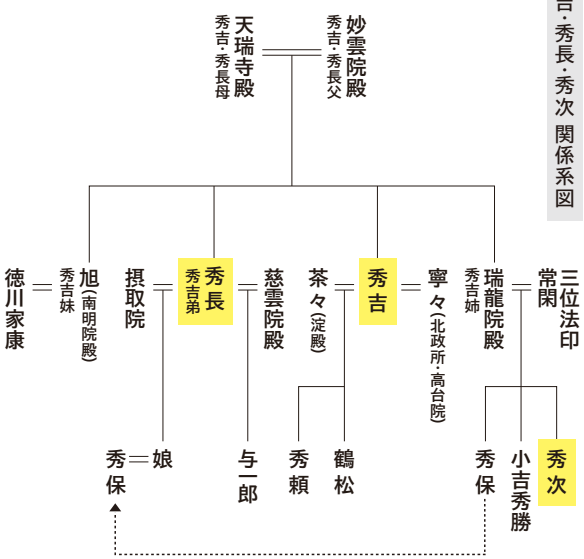
秀吉の甥・秀次（一五六四？～九五）もまた、近江との関係が深い。彼は幼少時に、長浜城主だった秀吉が配下の元浅井家の家臣で宮部城（長浜市）の城主だった宮部継潤（生年未詳～一五九九）との関係を深めるなかで、宮部家の養子に入り、「宮部吉継」として過ごした。その後、宮部家との養子関係は解消し、阿波三好家の養子となり「三好信吉」を名乗るが、秀吉が小牧・長久手合戦で織田家に代わる天下人へと歩みだすと、一門衆の「羽柴秀次」として活動を始める。

天正十三年（一五八五）閏八月、秀次は近江国内で四十三万石を与えられ、八幡山城（近江八幡市）を築いて支配を始める。その際、城下町の造成に「楽市楽座令」を出して、織田家の首府だった安土（近江八幡市）の機能を移転させたうえ、さらに商船の寄港を促し、商売活動を奨励した。その結果、八幡山城下町は近江を代表する都市として発展する。

その後、秀次は天下人羽柴家の家督を相続し、太閤となった秀吉のもとで政権運営に携わったが、秀吉との関係の悪化から自刃へと追い込まれてしまう。秀次の死後、八幡山城は廃されたが、八幡の町はその後も近江商人による商業都市として繁栄を維持していく。

このように秀吉と秀長・秀次は、近江から活躍を広げ、天下人とその一門衆となっていった。そして、近江もまた彼らの飛躍とともに、新たな歴史を歩んでいったのである。

秀吉・秀長・秀次 関係系図



八幡堀（近江八幡市）
琵琶湖と城下町を結び物資が行き来した。

新町通り（近江八幡市）
城下町の商人町は、やがて近江商人の町に発展した。

長浜曳山まつり（長浜市）
秀吉から振舞われた砂金で町衆が曳山を造ったことがはじまり。

豊国神社（長浜市）
慶長5年（1600）、秀吉をしのんで長浜の町衆が建立した。

Profile

柴 裕之●一九七三年、東京都生まれ。東洋大学文学部・駒澤大学文学部非常勤講師。博士（文学）。主な著書として、『羽柴秀長―秀吉の天下を支えた弟』（角川選書、二〇二五年）などがある。

徳川家康と近江

天下泰平の城

▲井伊直政像（彦根市）

慶長5年（1600）、関ケ原の戦いによって近江国を手中に収めた徳川家康は大津城を廃城とし、やや離れた東南の湖岸に公儀普請で膳所城を築城。さらに西方からの脅威に備えるために彦根城を公儀普請によって築城した。一方、主要街道が行きかう近江には将軍上洛時の御茶屋御殿が複数設けられ、3代将軍家光の時期まで利用された。

彦根城（ひこね）　彦根市

譜代大名筆頭の家格を誇る井伊家歴代の居城

彦根藩井伊家初代・直政が琵琶湖畔の磯山（米原市）に築城を計画したことにはじまる。直政の死後、直政の子・直継が遺志を継ぎ、一六〇四年より彦根山に築城を開始。大津城天守の一部を移築した天守は二年足らずで完成。城郭全体は約二十年を要し、彦根藩井伊家二代・直孝の時代に竣工した。

天守は現存で国宝。城跡（一部を除く）は国の特別史跡。長浜城からの移築と伝わる天秤櫓、二の丸佐和口多聞櫓、馬屋、太鼓門および続櫓、西の丸三重櫓および続櫓は、いずれも国の重要文化財。大手門と表御門からの坂道を登りきった先にある大堀切と廊下橋は、見どころの一つ。その先への侵入を効果的に遮断している。また、城内五か所に築かれた登り石垣にも注目して欲しい。全国的にも珍しく、彦根城を含め、わずか五城でしか見られない。

現在、彦根城は「江戸時代の政治体制を象徴する城」としてユネスコ世界文化遺産登録を目指しており、その動向にも注目が集まる。

彦根市金亀町1-1　0749-22-2742

玄宮園（玄宮楽々園）

彦根城の槻御殿の造営にともなって作庭された池泉回遊式庭園。現在、庭園部分を玄宮園、御殿部分を楽々園と称している。

彦根市金亀町3

彦根城博物館

彦根藩井伊家に伝わる美術工芸品、古文書などを展示する施設として表御殿を外観復元した歴史資料館。

彦根市金亀町1-1

膳所城（ぜぜ）　大津市

公儀普請で築城された琵琶湖岸の水城

一六〇一年、徳川家康の命により藤堂高虎が築城した。本丸と二の丸が琵琶湖に突き出し、西側には湖水を利用した天然の堀が巡っていた。城門や石材は大津城から移されたとされる。白壁の天守や櫓が湖上に浮かぶ美しい浮城だったとも伝わるが、その面影はほぼ見られない。城跡は、膳所城跡公園として整備されている。石垣や建物は残らないが、芭蕉会館（大津市）、六体地蔵堂（大津市）には櫓が、膳所神社（大津市）、篠津神社（大津市）、鞭崎神社（草津市）などには移築されたと伝わる城門が残り、往時の姿を今に伝えている。

大津市本丸町7
077-527-1555（（公財）大津市公園緑地協会）

慶長20年（1615）、徳川幕府は一国一城令を発布したが、近江は複数の藩が分立したため彦根藩の彦根城、膳所藩の膳所城、水口藩の水口城が幕末まで存在した。また江戸初期には将軍専用の御茶屋御殿が主要街道沿いに4か所設けられた。

水口城（みなくち）　甲賀市

徳川家の直轄地に築かれた将軍上洛時の宿館

一六三四年、三代将軍・徳川家光の上洛に際し宿泊所として築かれた。作事は二条城（京都府）などの築城も手がけた中井家、作事奉行は小堀政一（通称・遠州）がつとめた。

二重櫓を模した水口城資料館は、城外に移築された乾櫓の部材を再利用し建てられた。出丸の堀には木造の御成橋が架かる。

甲賀市水口町本丸　0748-63-5577（水口城資料館）

大池寺

徳川幕府に仕えた茶人大名・小堀遠州が手がけたと伝わる蓬莱庭園が有名。遠州は豊臣秀長の家臣小堀政次の子で秀長の小姓をつとめた。

甲賀市水口町名坂1168

永原御殿（ながはらごてん）　野洲市

下街道沿いに構えられた将軍専用の御茶屋御殿

将軍・徳川家康、秀忠、家光が上洛する際の宿泊所として築かれた。一六〇一年から一六三四年までに計十二回利用されている。本丸、二の丸、三の丸を備え、周囲には堀や土塁が築かれていることから城郭の役割も担っていたと考えられる。大規模な堀や土塁、石垣の一部が残る。国指定史跡。

野洲市永原　077-589-6436（野洲市文化財保護課）

草津宿本陣

江戸時代、数多くの大名や貴人が休泊した本陣。東海道の宿場に現存する本陣はここと二川宿（愛知県豊橋市）の2棟のみ。

草津市草津1-2-8

まだまだあるぞ

湖国 近江の名城

戦国時代、近江には数多くの中世城館、近世城郭が築かれた。
現在、確認されている城郭の数は1300か所以上といわれている。
「城の国」近江の戦国史の重要な舞台となった名城の一部を紹介する。

宇佐山城 大津市

一五七〇年、織田信長の命により家臣・森可成が築城した。近江と京都を結ぶ交通の要衝にあり、琵琶湖西岸における織田方の拠点として重要な役割を果たした。姉川の戦いの二か月後、朝倉・浅井連合軍が京都に向けて琵琶湖西岸を南下。宇佐山城も攻められたが、落城しなかった。可成は城を出て坂本で戦った末に討死。明智光秀が城主となった。

東側斜面に野面積みの石垣がよく残る。二の丸の南東下方、長さ十八メートルの石垣は見応えがある。枡形虎口も見られる。

大津市南滋賀町

三宅城（蓮生寺） 守山市

近江へ侵攻する織田信長と対立した際、湖南地域の真宗門徒たちが拠点とした城の一つ。現在、蓮生寺境内の周辺には高さ一メートル余りの土塁が残り、付近一帯が城跡と推定されている。

守山市三宅町1029

多喜山城 栗東市

元亀争乱で甲賀に逃れた六角氏に対抗するため織田信長方が築いた。枡形状の虎口は織豊系城郭の最初期の形式で貴重。山頂まで七二段の石段が整備されている。

栗東市六地蔵

小川城 甲賀市

築城時期や城主には諸説があるが、十六世紀後半に信楽周辺を支配した多羅尾氏の城となったようである。京都から伊賀へ抜ける街道を見通す場所に位置しており、大坂・堺にいた徳川家康が本能寺の変後「伊賀越え」をした際に立ち寄ったとされる。一五八五年頃、多羅尾氏が大規模な改修を行ったが、光太の娘が豊臣秀次に嫁いでいたため、秀次が自刃すると改易を命じられ廃城となった。

曲輪、土塁、切岸、礎石建物跡などが見られる。ハイキングコースとして整備されており訪れやすい。

甲賀市信楽町小川

上野城 甲賀市

六角氏に味方した地侍「甲賀五十三家」の中でも特に信頼の厚かった「南山六家」上野氏の城。主郭周囲には高さ三～六メートルにおよぶ土塁と横堀が巡らされている。堀切、竪土塁も見られる。

甲賀市甲賀町油日

土山城 甲賀市

一五八二年、織田方の滝川一益に攻められ、城主・土山氏は滅亡。二年後の小牧・長久手の戦いでは羽柴秀吉が増築・改修し本陣として利用したと考えられる。土塁、横堀、枡形虎口、堀切、角馬出が残る。

甲賀市土山町北土山

黒川氏城 甲賀市

佐々木六角氏に仕えた黒川氏の城と伝わる。山上の主郭部を高さ二メートルの土塁が囲む。主郭部虎口に石垣と石段が見られる点や横堀を多用している点から織豊政権の影響下で改変を受けた可能性がある。

甲賀市土山町鮎河

伊庭御殿 東近江市

国指定史跡。江戸時代初期に徳川将軍が上洛する際に利用する休憩所としてつくられた。建築は小堀政一（通称・遠州）が行ったとされる。建物跡の周囲には約五十メートルに渡り石垣が残る。

提供：東近江市埋蔵文化財センター

東近江市能登川町

後藤館 東近江市

六角氏の重臣・後藤氏の城館とされる。後藤氏は後に織田信長、蒲生氏郷に仕えた。高さ約三メートルの土塁や堀が残るほか、石垣を伴う虎口が見られる点も興味深い。県指定史跡。

提供：東近江市埋蔵文化財センター

東近江市中羽田町

瓶割山城（長光寺城） 近江八幡市・東近江市

十五世紀後半の築城とされる六角氏の城。織田信長の近江侵攻後の一五七〇年には柴田勝家が籠城した。石垣、堀切、竪堀などが残存する。本丸南西部にある最も大規模な石垣は高さ約六メートルある。

近江八幡市長光寺町

佐生城 東近江市

後藤館と同じく六角氏に従った土豪・後藤氏の居城だとされるが、史料はなく詳細は不明。六角氏の居城・観音寺城のある繖山から伸びる北端尾根に、観音寺城の支城として築かれた。一五六八年、織田信長の近江侵攻に備え、北側の防御が弱い観音寺城を補う目的があったと考えられる。曲輪の周囲に石垣を構築している。観音寺城と同様に石垣を多用しているが、石材の加工技術は異なる。本丸の南面と西面に石垣が残る。特に南西隅部、高さ約四メートルの石垣は見応えがある。

提供：東近江市埋蔵文化財センター

東近江市五個荘日吉町

音羽城 日野町

惣領・蒲生秀紀と叔父・高郷との間で争いが起きると、高郷に加勢した六角定頼に攻められた。降伏した秀紀は鎌掛城へ退き、廃城になったとされる。井戸跡、堀切のほか部分的に土塁が残る。

蒲生郡日野町音羽

鎌掛城（かいがけじょう） 日野町

湖東地方有数の規模を誇る山城。蒲生氏の本城・音羽城の支城と伝えられる。山上には曲輪、堀、土塁、堀切、石組み井戸跡が残る。山麓には空堀と土塁が囲む館跡もある。※入山規制の時期あり。

蒲生郡日野町鎌掛

佐久良城（さくら） 日野町

築城や廃城の年代は不明。京極氏や六角氏に属した小倉氏の居城とされる。約五十メートル四方の主郭周辺に高さ約四メートルの土塁を巡らせている。大規模な堀切、竪堀、石積みなども見られる。

蒲生郡日野町佐久良

中野城（なかの）（日野城（ひの）） 日野町

蒲生氏の居城で蒲生氏郷の生誕地としても知られる。本能寺の変のときには、安土城を守っていた蒲生賢秀が氏郷と協力し、織田信長の妻子をこの城で保護したとされる。土塁、堀、井戸跡が残る。

蒲生郡日野町西大路

敏満寺城（びんまんじ） 多賀町

宗教都市として機能した敏満寺を防御するための城と考えられる。戦国期には浅井長政、織田信長に攻められ焼失したとされる。城跡は名神高速道路多賀サービスエリア（上り）にある。土塁、堀が残る。

犬上郡多賀町敏満寺

長比城（たけくらべじょう） 米原市

一五七〇年、浅井長政は近江への侵攻を企てる織田信長に対抗するため朝倉氏の支援を受け、北国脇往還沿いに上平寺城、東山道（中山道）沿いに長比城を築いた。しかし、築城後すぐに織田方の調略を受け内通。降伏すると信長が入城した。本来の機能が果たされず、信長の近江侵攻を許す結果となった。

ここは滋賀県と岐阜県にまたがる野瀬山に築かれた境目の城である。東西の二つの曲輪で構成されており、東のほうが十メートルほど高い。両曲輪共に幅の広い土塁が囲む。堀切、竪堀も残る。

米原市柏原、長久寺

井上館（いのうえやかた） 竜王町

星ヶ崎城の東側に位置する単郭式城館。近江源氏佐々木氏の一族である鏡久綱の居館とされる。土塁、空堀が囲み、北側には見事な水堀が現存する。※個人宅のためマナーを守って見学すること。

蒲生郡竜王町鏡

肥田城（ひだじょう） 彦根市

六角氏の配下にあった土豪・高野瀬隆重（たかのせたかしげ）による築城と伝わる。秀隆の代に浅井長政と通じ、一五五九年に六角承禎による水攻めを受けた。これが日本初の水攻めとされる。土塁の痕跡がわずかに残る。

彦根市肥田町

目賀田城（めかた） 愛荘町

佐々木六角氏に仕えた目賀田氏の城。方形単郭城館。本能寺の変で明智方についた目賀田氏は羽柴（豊臣）方に捕らえられ浪人となった後、廃城となった。公園として整備されており土塁の遺構が見やすい。

愛荘町目加田

弥高寺（やたかじ） 米原市

国指定史跡。伊吹山の中腹にある山岳寺院跡。戦国期には京極氏が城郭として利用した。織田信長の近江侵攻に備え、浅井氏が上平寺城と共に改修したとされる。大堀切、連続竪堀群、大門跡などが残る。

米原市弥高

下坂氏館（しもさかしやかた） 長浜市

国指定史跡・北近江城館跡群を構成する館群の一つ。室町から戦国時代まで続く村落領主・下坂氏の屋敷跡。下坂氏は京極氏や浅井氏の家臣として活躍したとされる。浅井氏滅亡後は帰農するが、江戸時代になると郷士として彦根藩と関わりを持ったとされる。主郭は約九十メートル四方で、堀と二重の土塁が廻っている。十八世紀の建築とみられる主屋や表門、下坂氏の菩提寺・不断光院も保存されている。これほど良好に戦国時代の屋敷構えが残っている遺構は全国的に見ても例がない。

長浜市下坂中町178

山崎山城（やまざきやまじょう） 彦根市

一五六八年に六角氏を見限り織田信長に仕えた山崎片家による築城とされる。

佐和山城と安土城の中間地点にあることから信長の休憩所の役割があったと考えられており、一五八二年には天下統一を目前にした信長が安土への凱旋中に立ち寄ったとされる。同年、本能寺の変で信長が明智光秀に討たれると、安土城を守っていた片家は退去。山崎山城に籠城したが、明智方の大軍を前に降伏した。山頂部中央に堀切があり、その東側に曲輪が並ぶ。東西南面に石垣が残るほか、櫓台が見られる。

彦根市清崎町

久徳城（きゅうとく） 多賀町

京極氏に仕えた久徳氏の居城。築城年代、廃城時期は不明。一五六〇年、浅井長政に攻められ落城した。城跡の中心部は市杵島姫（いちきしまひめ）神社境内と考えられている。周辺に堀と土塁が残る。

犬上郡多賀町久徳

上坂城（上坂氏館）（こうざかしやかた） 長浜市

湖北の土豪で京極氏の有力家臣だった上坂氏の館跡。今も「いがんど」（伊賀守屋敷）や「しなんど」（信濃守屋敷）の地名や土塁の一部が残る。伊賀守屋敷の門は上坂児童公園内に移築されている。

長浜市西上坂町

三田村氏館（みたむらしやかた） 長浜市

国指定史跡・北近江城館跡群を構成する館群の一つ。京極氏、浅井氏に仕えた土豪・三田村氏の館跡。姉川の戦いの際には浅井氏の援軍として遠征した朝倉景建が本陣を置いたとされる。土塁が良好に残る。

長浜市三田町

田中城（たなか） 高島市

織田信長が朝倉義景を討つため湖西を北上し、敦賀へ向かう途中に宿泊したと伝わる。一五七三年、信長が攻略し明智光秀の支配下となった。土塁、堀切、切岸などが残る。※入口に獣害対策の柵あり。手動で開閉可。

高島市安曇川町田中

歴史好きなら　見逃せない！

近江 戦国スポット

文 クリス グレン
（お城好きラジオDJ）

近江観光大使クリスグレンおすすめ！

Profile
オーストラリア出身。
名古屋在住のラジオDJ。
日本を愛する外国人として
テレビ出演多数。趣味は城めぐり。
訪城数650か所以上。
甲冑制作の経験を持つ
戦国マニアでもある。

国友鉄砲ミュージアム　長浜市

火縄銃の一大産地といえば、やはり国友。全盛期には70余の鍛冶屋と500人を超す職人で賑わいました。火縄銃専門のミュージアムには大小合わせて約50挺の火縄銃を展示。しかもこれ、ほとんどは町内の各家から持ち寄られた所蔵品！地元の愛を感じます。

長浜市国友町534　0749-62-1250

鍛冶師、台師、金具師など
職人たちの屋敷跡には
石柱がたっています。
町全体で火縄銃づくりに
取り組んでいた証です。

竹生島宝厳寺（ちくぶしまほうごんじ）　長浜市

聖武天皇の勅願により開基された1300年以上の歴史をもつ寺院です。観音堂（重要文化財）に接して建てられた「唐門」（国宝）は必見！豊臣秀吉を祀った「豊国廟」（京都）に建てられていた極楽門の移築です。豊臣大坂城唯一の現存遺構の可能性大。これぞ近江の宝です。

長浜市早崎町1664　0749-63-4410

観音堂から続く渡廊「舟廊下」は
朝鮮出兵のときに秀吉が
ご座船として造らせた「日本丸」の
船櫓を利用しています。感動！

在士高虎（ざいしたかとら）公園　甲良町

藤堂高虎の出生地にある公園です。騎馬像の高虎が着用している甲冑は二枚胴当世具足。兜はアノ有名な黒漆塗唐冠形兜です。今にも高虎の声が聞こえてきそうなカッコいい騎馬像を見ると思わず同じポーズで写真を撮りたくなりますね。藤堂家より寄進された灯籠もあります。

甲良町大字在士808　0749-38-2035（甲良町観光協会）

徳川大坂城の築城にも
関わった高虎。園内には、
そのとき使われなかった
矢穴が残る巨石が置かれています。
その重さ、約11トン！

坂本のまちなみ（穴太衆（あのうしゅう）積み石垣）　大津市

比叡山延暦寺の門前町として栄えた坂本のまち。坂本に点在する「里坊」（延暦寺で修行を積んだ僧侶の隠居坊）には荒々しくも美しい穴太衆積みの石垣が見られます。それぞれ表情が違うので見ていて飽きません。

大津市坂本
077-578-6565（坂本観光案内所）

多くの城の
石垣づくりに携わった
「穴太衆」の職人ワザ
ここにあり！
一帯は重要伝統的建造物群
保存地区に選定されています。

甲賀流忍術屋敷　甲賀市

六角氏のもとで活躍したとされる甲賀流忍者・甲賀五十三家筆頭格の甲賀望月氏本家旧邸です。元禄年間（1688-1704）に建てられたホンモノの忍者屋敷には「どんでん返し」「からくり窓」「落とし穴」などの巧妙な仕掛けが、いっぱい。一部は体験もできます。

甲賀市甲南町竜法師2331　0748-86-2179

平屋建てに見えますが、
実は三階建て！
さすが忍者屋敷。
手裏剣などの忍具、忍術の
奥義を記した書物や巻物などの
資料展示もあります。

油日（あぶらひ）神社　甲賀市

甲賀武士（甲賀流忍者）ゆかりの神社です。境内は甲賀郡中惣遺跡群の一つとして国史跡に指定されています。本殿、拝殿、楼門、回廊（すべて国重要文化財）が建てられたのは、いずれも戦国期！そのうち本殿は甲賀武士たちの寄進によるものです。ここが甲賀武士たちの拠り所だったことがわかります。

甲賀市甲賀町油日1042　0748-88-2106

檜の樹皮を何層にも重ねた
檜皮葺の屋根、
木組、彫刻など日本の
伝統工法による建築は
本当に素晴らしい！
感動が、じわじわきます。